



受験生を狙う 痴漢を許さない 対策強化を申し入れ

受験シーズンをむかえ、近年、SNS上などで受験生への痴漢をおおる行為が後を絶ちません。痴漢・盗撮は卑劣な性犯罪であり、試験に遅刻できず、被害に遭ったと言えない受験生の弱みにつけ込んだ極めて悪質な行為です。被害者は、その後の人生に計り知れない身体的・精神的苦痛を背負い続けます。

千葉県、教育委員会・学校、警察、鉄道会社などが連携・協力した対策の強化が大切です

政府は「痴漢撲滅に向けた政策パッケージ」を作成しました。日本共産党も「痴漢ゼロ」をめざしてアンケートを行い、議会の内外で対策を求めています。党県議団と千葉県委員会は12月19日、知事、県教育長、県警本部長あてに「受験生をねらった痴漢加害防止と被害者救済の強化」を申し入れました。

申し入れ事項（要旨）

1. 痴漢や盗撮の加害を起こさせないように、交通機関における対策を普段以上に強化。
駅女性係員の増員、電車内の巡回警備、警察官による巡回の強化。女性専用車両の拡大。
2. 「痴漢は犯罪」などアナウンス放送や電車内の動画、電光掲示板、SNSでの呼びかけ強化。
目撃者など第三者による「アクティブ・バイスタンダー（行動する第三者）」の役割重視。
3. 性犯罪・性暴力被害者のワンストップ支援センターや警察などの相談機関の窓口強化と広報。
4. 入試日に痴漢被害など本人の責めによらない事由で遅れた場合、救済措置の対象となることを周知。
受験機会の保障を各学校に働きかける。入試日のズボン使用等を認め、制服着用の強制は見直す。
5. 県として、痴漢被害の実態調査を行う。その際、二次被害が生じないように慎重にする。
加害をうまない対策、被害を受けた人の救済に関係機関と連携して取り組む。



↑申し入れ書
全文はコチラ

新京成鉄道や北総鉄道には「女性専用車両」がありません。参加者は「痴漢防止の効果がある女性専用車両の導入を」と訴えました。県の担当課は「鉄道会社が判断すること」などと、後ろ向きの姿勢です。



左から：浅野ふみ子県議、加藤英雄県議、岡田幸子元県議、さいとう和子元衆院議員、みわ由美県議、かなみつ理恵船橋市議、丸山慎一県議